

ヒメボクトウ

県内では、平成21年6月に福島市のリンゴ園やいわき市のナシ園で、枝幹部から虫糞や木屑が発生している被害樹が確認された（写真3）。現在、被害が拡大しており、リンゴ、ナシの他、イチョウでも発生が確認されている。

発生生態

形態

幼虫は、赤紫色～赤褐色のイモ虫状であり、体長は約10～40mmである（写真1）。成虫は、開張すると40～60mmになり、触覚は糸状で、前翅は、全体に灰褐色で黒色の波状模様が見られる（写真2）。

生態

卵は、卵塊で主に粗皮の隙間に生み付けられ、幼虫は、枝幹内部を集団で加害する。幼虫期間が長く、羽化するまでに3年以上かかると考えられている。本県における成虫の発生期間は、6月下旬から8月上旬であり、発生回数は年1回、発生盛期は7月2半旬～5半旬頃である。

被害の特徴

枝や主幹部内を幼虫が集団で摂食し、加害するため、多くの虫糞と木屑を排出する（写真3）。被害部からは木屑が排出されるとともに、樹液が滲出して異臭を発する。食害された樹体は衰弱し、寄生が多いと枯死することもある。



写真1 ヒメボクトウ幼虫



写真2 ヒメボクトウ成虫



写真3 リンゴの被害樹

防除のポイント

- ・粗皮の間隙が産卵部位となっているので、休眠期に粗皮削りを実施する。
- ・枝幹の被害部位は、せん除して適切に処分する。

写真提供

- (1) 福島県農業総合センター果樹研究所

